

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992100032		
法人名	有限会社ポブラサポート		
事業所名	グループホームぽぷら		
所在地	栃木県河内郡上三川町大字石田1231番地3		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者、家族、職員を含め、大家族が一つ屋根の下で生活しているという考え方の元で、家庭的な雰囲気の中、個人にあったすごし方が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、周辺に田園の広がる閑静な住宅地の中にある。小規模多機能型居宅介護事業所等が併設され、地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識して事業に取り組んでいる。理念に「ともに生きる」を掲げ、サービスの質の向上と家庭的な雰囲気の中での個人の暮らしを尊重し、利用者が安心して生活できるよう努めている。食材の購入等で地域の店を利用したり、宅配を依頼するなど、地域との付き合いを大切にしている。米と野菜は、事業所で作ったものを提供するなど、食事を楽しむ支援に励んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」を理念として掲げ、すべての考え方の基本としている。理念については、フロア内に掲示、入社時、年1回の内部講習にて共有している。	理念に「ともに生きる」を掲げ、「支え、支えられる生活、互いに理解し認め合い受け入れる、多様なつながりと交流機会」を基本としている。入社時や年1回の内部講習において共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域店舗への買い物、イベントへの参加など地域とのつながりを重視した活動を行っている。	自治会には加入していないが、地域のイベントや夏祭りの参加、小学生等との交流を積極的に行うなど、地域との相互交流に努めている。今後広報紙作成等の取り組みも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民にむけ、認知症の理解、支援方法などの情報を発信していく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員やご家族様、行政等毎回多くの方にご出席いただき、頂戴したご意見に関しては運営や活動に反映させるように努めている。	運営推進会議は2ヵ月毎に家族、地域代表、町職員、利用者等の参加により開催している。事業所での生活状況や行事報告等を行い参加者の質疑や提案を受け、運営や支援に活かしている。家族の意見が重要と考え、家族会の設置を検討している。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるため、報告や情報交換にとどまらず、家族会の設置等による、より多くの意見や提案を得る機会の構築に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町職員の方に毎回出席していただき、助言を頂戴したり運営状況の報告などを行っている。	町職員には事業所の利用状況や利用者のニーズを具体的に伝えたり、運営推進会議等の来所時に問題点等を相談したりと、日頃から連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠は夜間のみで、日中はしていない。また、勉強会を行い職員には身体拘束をしないという認識を持たせている。	職員は研修等で、身体拘束が利用者にあたる身体的、精神的苦痛について理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで話し合うと共に、勉強会を設けることにより注意喚起をしている。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、まだ活用の機会はない。活用したいという希望があれば支援を行いたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を用いて十分に説明を行い、納得していただいた上で契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用し、気軽に要望や意見を言えるような雰囲気作りに努め、いただいた意見などには速やかに対応している。	利用時に事業所の苦情受付担当や外部の苦情受付機関がある事を説明している。運営推進会議においても気軽に意見や要望等が言い易い環境づくりに努め、面会時等にも積極的にコミュニケーションをとるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議やグループホーム内でのミーティングで出された意見や提案などを聞き、運営に反映させている。	管理者は、月1回の内部研修や、年2回の職員との面接において、日常的な関わりの中で生まれる職員の気付きやアイデアを取り入れ、運営に反映させている。	事業所の運営や重要な決定事項に関して、現場職員の意見を十分に聞くためのカンファレンスの設定や、OJT等の実施による職員の技術・知識の向上にも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員と代表者で面接を行い自己、職場の向上のための目標設定及び、結果の反省を行っている。関係する資格には手当を支給し、資格取得を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内で職員主催による研修を実施し、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は実施できていない。今後、同業者等と交流する機会を設け、サービスの向上を図る。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームを見学していただき、他の利用者様のことなども説明し、ご家族様から情報を得たり本人の不安や要望などを聞きだすことで、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接ご家族様に話を聞き、不安や要望などがあれば耳を傾け、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用相談時に本人やご家族様が何を求めているのか、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴から指導していただけることを学んだり、本人の力量に応じた得意分野を発揮していただくことで、お互いに助け合って暮らす関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン修正時に近況報告をし、暮らしや気付きの情報を伝え、ご家族様の思いと共に一緒に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のイベント、お祭り等には外出し、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。家族にも案内し、一緒に参加できるよう配慮している。	利用者の生活歴を家族等から確認し、家族等の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。いきつけの美容室への外出や、地域のイベント、お祭りへの参加など、利用者の希望に沿った支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や仲の良い利用者同士の関係を把握し、生活作業などを通じて関わり合い、支え合える機会を設け、孤立しないように支援をしている。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった後も必要に応じて、ご家族様や関係機関との情報交換、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成前には、必ず本人とご家族様の意向を確認している。情報収集は主介護者からのみとせず、関わる方々からも行うようにしている。	日常の関わりの中から、利用者の言動や表情を通して思いや意向の把握に努めている。また家族からの生活歴等の情報も参考にしながら本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの活用と取り巻く方々からの情報を基に、プランに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別で24時間シートを作成し、日々の観察、状態変化への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様からの意見、職員から意見をケース会議で話し合い、心身状態や暮らしに合った本人本位の計画を作成するよう努めている。	利用者、家族からニーズを確認し、職員の気付きや提案も参考にしながら個別に具体的な介護計画を作成している。見直しは3ヵ月毎としているが、状態に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録を準備し、ケアの結果を把握し振り返れるように記録している。また、申し送りやミーティングの際にも随時、情報を共有しながら柔軟な対応を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されている利用者様やそのご家族様へ、面会時等、随時、意見を聞き取り、対応している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店での買い物や、行事に可能な限り出かけていき、交流が途絶えないように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の方針により、総合病院、クリニック、訪問診療の何れかを選択できるようにしている。	利用者の希望に合わせて、協力医や訪問診療等、受診する医療機関を選択できるよう支援している。事業所内に看護職員を配置し、緊急体制を整えている他、服薬管理も適切に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護職員を配置しており、定期的に利用者様の状態把握や体調管理を行っている。また、緊急時には24時間連絡がとれる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの記録や情報交換により、看護職員を中心に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで可能なケアやサービスについて、入居前にご家族様族に説明し、同意をいただいている。重度化・終末期にグループホーム内では困難なケアやサービスを希望する場合、医療機関との連絡調整を行っている。	利用者や家族の意向を確認しながら、安心し納得した最後が迎えられるように、医者や看護師、職員間等で連携体制を構築しながら終末期へ向けた支援に努めている。家族、職員、訪問診療医の連携の下、看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応ができるように心肺蘇生法の講習を受け、定期的に訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。その内1回は消防署の協力を受けている。また、スプリンクラーの設置、非常食、水の確保をしている。	年1回の消防署立ち会いの基での訓練を含め、年2回防災訓練を実施している。今後夜間想定訓練も実施予定である。米、水、非常食等の備蓄も確保され、発電機も用意されている。	備蓄や訓練は行われているが、利用者一人ひとりの状態を踏まえて確実な避難誘導ができるよう、地域住民との連携や地域代表者を連絡網に組み入れる等の協力体制づくりに期待したい。

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の情報を把握し、それぞれに即した対応を行うことで、プライバシーを損なわないよう、個々に合った声かけを行うように努めている。	利用者はさん付けで呼ぶこととし、自己決定をしやすい言葉かけや、目立たずさりげない対応に努めている。写真等の貼付は家族等の了解を得て行うよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人やご家族様、日々のケアからの情報をもとに、何を求めているのか、思いを表せるような機会を設け急がずにゆとりを持って自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、ペースに合わせながら、希望に沿った支援をしている。住み慣れた環境でその人らしい生活ができるよう、援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事に合わせて、その人らしいおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をひとつの楽しみとしていただけるよう、好み、季節感のある料理を提供している。	食材等は調理されたものが隣接の施設より宅配される。利用者の好みや状態に合わせて代替え食を行う等、食事を楽しめるよう配慮している。職員は交代で必要な利用者の介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランス、水分量が一日を通じて確保できているか観察をしている。勉強会を開き、脱水症や健康管理について、知識の向上を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後に、本人の力量に応じた口腔ケアを実施している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を軽減するために、定期的の声かけや誘導だけでなく、その方の頻度や排泄パターンに合わせて促している。訴えがない方もトイレで排泄できるよう、様子を観察し、適宜、誘導を行っている。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンやサイン等の把握に努め、トイレでの自立した排泄を支援している。失禁時等は他の利用者の目に触れないようさりげない対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表に排便状況と水分摂取量を記入し、毎日観察している。水分を十分にとっていたりするように、その方の希望に合わせて飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時はこちらで決めず、利用者様の要望を取り入れ、シャワー浴や足浴、清拭などを行い、個々に応じた支援をしている。	入浴は午前10時～と午後2時～の時間帯とし、週3回入浴出来るようにしている。シャワー浴、足浴、清拭等、利用者個々の希望や状態に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息や安眠ができるように支援し、安心した場所であると思っただけするように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬剤情報に目を通し、申し送りやミーティングの際に注意すべき内容の周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や季節に応じた行事参加、地域のイベント参加、散歩等、集団もしくは個別対応ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の健康状態や気分に合わせて、周辺の散歩など外出している。気軽に出かけられるよう、希望に沿った支援を行えるように努めている。	短時間でも戸外に出る機会を作るよう配慮し、事業所周辺の散歩や近隣の公園に外出している。外出時には、利用者の力量に応じ、買い物の支援等もしている。	

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持し、自由に使える方もいる。買い物をする時に付き添い、力量に応じてお金を払ったり、釣銭をもらうなどしていただいたり、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様にに応じて、電話や手紙のやり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の工作や飾り付けをし、利用者様やご家族様に楽しんでいただいている。また、ソファや畳スペースを設け、好きな場所で過ごすことができる空間としている。また、室内温度や湿度に気を配り、利用者の体調管理に努めている。	共用空間は天井が高く、穏やかな自然光が差し込み、温湿度も適切に管理された居心地の良い環境となっている。畳スペースがあり、家族等の訪問時にゆったりと語らう事ができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の安心できる場所があれば、その場所で寛げるようにソファを配置したり、椅子を置いて、ゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドなど一式は施設の備え付けで準備しているが、寝具、タンス、テーブル、椅子等、利用者様の馴染みのものを個々に準備して持ち込んでいただくことも可能としている。馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地良く過ごすことができる空間づくりに努めている。	ベット、布団、衣類入れ、時計、テレビ等が備え付けられている。居室入口には暖簾等がさげられ違和感がないよう工夫されている。利用者は馴染みの物を自由に持ち込み、居心地良く安心して過ごせる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の残存機能や能力に応じて、トイレや食堂に近い居室にする等、配慮している。また、車椅子の方でも必要物品の取り出しが行えるよう、高さや配置について配慮している。また、廊下には手すりを付け、歩行がスムーズに行えるよう配慮している。		